

# knowing-how と運動表象

佐藤 広大 (Kodai Sato)

慶應義塾大学

本発表の主題は、「方法知 (knowing-how)」と「運動表象」である。

一つ目の主題の方法知とは、ある行為をする方法についての知識である。方法知の例としては、自転車に乗る方法知などがある。

方法知は、「命題知 (knowing-that)」と対比される。命題知とは、ある事実についての知識である。命題知の例としては、日本の首都は東京であるという命題知などがある。

方法知と命題知をめぐるのは、方法知が命題知に還元されるか、つまり、方法知は命題知によって汲みつくされるかどうか争われてきた。「主知主義 (intellectualism)」は方法知が命題知に還元されると主張し、「反主知主義 (anti-intellectualism)」は還元されないと主張する。反主知主義も主知主義も、様々な事例を挙げることで、自説を擁護したり相手の説に反論したりしてきた。

反主知主義は自説を擁護するために次のような事例などを挙げる。チェスの初心者は、チェスの熟練者が持つすべての命題知を聞いても、チェスの熟練者ほどチェスが上手くならない。反主知主義者によれば、この事例は、チェスの熟練者が持つチェスをする方法知が命題知によって汲みつくされないということを示す (Levy 2017, pp.513-514)。

一方、主知主義も自説を擁護するために次のような事例などを挙げる。名監督が必ずしも名選手であったとはかぎらない、つまり、あるスポーツの名監督はそのスポーツを上手に行う傾向性は持っていないが、そのスポーツについて命題知を使って上手く指示を出すことはでき、方法知を持っている。よって、主知主義者によれば、この事例は、方法知には命題知以外の傾向性などは必要ないということを示す (Levy 2017, p.514)。

近年、反主知主義と主知主義の論争は、運動表象をめぐるなされている。この運動表象が、本発表の二つ目の主題である。運動表象は、行為の目標や手段を非命題的な形式で表象する (Mylopoulos & Pacherie 2019, p.3)。運動表象は、その他の特徴として、実践的推論の入力や出力ではなく素早い感覚運動計算の入力や出力であるという特徴や、意識的な制御のもとで機能するのではなく大部分自動的に機能するという特徴などを持つ (Mylopoulos & Pacherie 2017, pp.322-323)。

この運動表象を使って、反主知主義も主知主義も自説を擁護し始めている。たとえば、反主知主義者の G・フェレッティは、運動表象を使って、方法知は命題知によって汲みつくされないことを示そうとしている。フェレッティによれば、ある行為に熟達した行為者が示すその行為をする方法についての方法知は、非命題的な運動表象に基づいていることがある (Ferretti 2021)。一方、主知主義者の C・パヴェーゼは、運動表象を使って、方法知が命題知によって汲みつくされることを示そうとしている。パヴェーゼによれば、非命題的な運動表象は方法知の一部であり、方法知全体は命題知である (Pavese 2015; 2017. Cf. Schwartz & Drayson 2019, pp.681-682)。

本発表は、運動表象をめぐる反主知主義と主知主義のこの論争を、方法知の発揮である意図的行為という観点から捉え直す。その結果、主知主義は、近年の意図的行為についての研究の大きな流れと一致していて、これまで考えられてきたよりも意図的行為についてのもっともらしい見方であることが明らかになる。その一方で、主知主義の限界も明らかになる。もし主知主義が意図的行為の典型例についての理論ではなく、意図的行為の厳密な必要十分条件についての理論などしたら、主知主義は誤っている。

#### 参考文献

- Ferretti, G. (2021), "Anti-intellectualist motor knowledge," *Synthese* **198** (11), 10733-10763.
- Levy, N. (2017), "Embodied savoir-faire: knowledge-how requires motor representations," *Synthese* **194** (2), 511-530.
- Mylopoulos, M. & Pacherie, E. (2017), "Intentions and motor representations: the interface challenge," *Review of Philosophy and Psychology* **8**, 317-336.
- (2019), "Intentions: the dynamic hierarchical model revisited," *WIREs Cognitive Science* **10** (2), e1481.
- Pavese, C. (2015), "Practical senses," *Philosophers' Imprint* **15** (29), 1-25.
- (2017), "A theory of practical meaning," *Philosophical Topics* **45** (2), 65-96.
- Schwartz, A. & Drayson, Z. (2019), "Intellectualism and the argument from cognitive science," *Philosophical Psychology* **32** (5), 662-692.